

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に事業所の理念を全職員で考え提示している。理念を見ることで日々のサービスを振り返り、利用者の気持ちを考えながら支援をするようにしている。	全職員で話し合い作成した事業所独自の理念であり、目に付く場所への掲示のほか、毎朝の申し送り時に実践できているか振り返りをおこない、意識付けを図っている。理念に基づき、寄り添う時間を多く持ち、介助ではなく共に生活するような気持ちで利用者に接し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動は少ないが、運営推進会議や夏には納涼祭を開催し、地域の方にも来ていただいている。中学生の職場体験やボランティアの受け入れなども行っている。	併設施設と合同で納涼祭を開催し、地域の方にも参加を呼び掛けている。地域ボランティアや中学生の職場体験を受け入れたり、散歩時には住民との会話を心がけ、地域の方と触れ合う機会を大切にしている。	地域行事への参加が行われていない。保育園・学校の行事や、地域主催の行事など、地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、地域との接点を持つような取り組みを行うことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域全体に話すような場はないが、運営推進会議の時や訪問された方などには話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や日々の活動写真などを見ながら、参加していただいた方から意見が出やすいように話し合いを行っている。利用状況やお知らせなども書類を見ながら報告し、情報交換などが行えるよう努めている。	併設施設と合同で、家族、町内会長、民生委員、地域包括、地域密着型サービスの知見者などが参加して2ヶ月に1回開催している。利用者にもお茶を運んでもらい、その際に話を伺うという形で参加してもらっている。ホームの状況や課題、地域の情報等を共有しながら意見交換し、その内容を運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことや疑問などがあれば市の担当に相談などし、地域包括センターを通じ他グループホーム同士で連携をとっている。	区の担当者とは、日頃から何かあれば電話連絡したり、出向いて相談したりしている。また、市主催の研修会に参加したり、市の「元気力アップサポーター」制度の受入協力機関として登録するなどして、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で入居者様一人ひとりの現況報告を申し送りなどで話し合っているが、職員が少ない時など時間帯によっては事故防止のため玄関の鍵や窓のロックを閉めざるを得ない状況がある。	外部研修に参加し伝達講習を実施したり、内部研修を実施し、言葉使いなどで自分では拘束と思っていなくても拘束にあたる行為もあることを周知している。また、毎朝の申し送り時に拘束にあたる行為がなかったか振り返りを行なっている。家族の要望もあり安全確保の観点から玄関は施錠しているが、解錠に向けた取り組みを検討中である。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の外部研修で学んだことを内部研修で全職員に伝え、虐待について見直しをしている。日々、入居者様の観察をし、何かあった場合には報告をしながら職員全体で共通理解するようにしている。	身体拘束と同様に、研修等で虐待にあたる行為の具体例などを学び、虐待防止について周知徹底されている。言葉による虐待にも注意を払い、日頃から職員間で互いに確認している。職員のストレスにも配慮しており、休憩をゆとり取れるよう離れの休憩室が用意されている。また、日頃からコミュニケーションをとり、ストレスの軽減に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修等で学んだことを職員に伝え、実際に活かしていけるよう学んでいくことが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者やケアマネージャーが責任をもって説明し、家族の不安や疑問を理解しながら納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などでの意見、要望には速やかに職員全体で対応するように心がけ、意見が言いやすい関係づくりを目指している。	利用者からは、日々の会話や関わりの中で意見や希望などを聞くようしている。家族からは、面会時に積極的に話しかけたり、電話時に問いかけたりして意見・要望を引き出せるよう努めている。また、サービス担当者会議は家族の都合に合わせて開催し、できるだけ来所して頂き意見・要望を伺う機会となるよう努めている。把握した内容はケース記録や申し送りノートに記録して共有し、速やかな対応を心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営や業務について現場での職員の意見を参考にし、より良い運営をしていくようにしている。	2ヶ月に1回の職員会議や年1回の個人面談を実施し、意見を聞いている。また、管理者は申し送りに参加したり、日頃から職員の様子を見てさりげなく声をかけるなどし、職員がいつでも意見を言いやすい雰囲気づくりがなされている。寄せられた意見や提案は業務改善やサービスの向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得や勤務状況に応じて、やりがいをもって働けるよう給料アップなども考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の為に様々な研修を受けるようにし、内部研修も行っている。今後職員間でも研修を立案し行うことも必要である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者との情報交換をもつようにし、サービスの質の向上にいかすようにしている。今後、職員同士の交流も行っていきたい。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基に、職員間で情報の共有をしている。利用前には見学等をし自前に関わりをもつようにしている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや要望、利用者様の思いなども把握するようにし、支援を行うようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族に今までの様子を聞き参考にしながら、その人にあった支援を行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは役割をもって行ってもらい、職員はつねに支え合い支援するよう努めている。	
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時間を制限せず、来られたときには家族からの要望、思いを汲み取るようにしている。	面会時間の制限をしておらず、仕事等の関係で遅い時間にしか来られない家族でも面会できるよう配慮している。また、サービス担当者会議にはできるだけ家族にも参加してもらうようにしており、状態の説明のほか、家族の話をじっくりと聞き思いなどを汲み取ったり、本人の家族への思いを伝え、共に本人を支えていくための関係作りに努めている。行事には家族へ参加を働きかけているほか、家族との外出・外泊の支援も行っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所での買い物やドライブなどをし、大切にしてきた思い出話をしながら関係を保てるよう努めている。事業所近くのご利用者様の畑を借り、イチゴの苗を植えたり、畑に通いながら馴染みの場所を大切にしている。	入居時に本人や家族からこれまでの馴染みの人や場所などについて聞き取りを行ない把握している。入居後も把握に努め、把握した情報は記録して共有し、具体的な支援につなげている。馴染みのスーパーへ買い物に行ったり、慣れ親しんだ畑仕事継続の支援、友人の訪問受け入れなど、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の様子を把握し、職員が間に入りながらコミュニケーションの橋渡しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等には、その後の相談やフォローできるように努めている。契約が終了しても行事などで言葉をかけ気軽に来ていただけるよう配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が何をしたいのかを聞いたり一緒に考えることで、その方にあった寄り添いをつねに意識するようにしている。困難な場合は家族と話し合い、相談を行うようにしている。	利用者に寄り添うことを最優先しており、日々の関わりや会話の中で思いを聞いている。会話の難しい方は家族に聞いたり、職員全員が一人ひとりの思いの把握に努め、情報を共有することで、本人の真意を推し測っている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族に話を聞き、関係なども把握できるよう努めている。	利用時家族や利用していたサービスの関係者から話を聞いている。入居後も昔の話を聞かせてもらいながら生活歴を把握している。裁縫や畑仕事など本人のやりたいことや何を喜びと感じるのか全職員で話し合い、自分らしく暮らせるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や申し送りで日々の様子を記録し、職員が状態を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングを行い、現場の職員からも意見やアイデアを出すようにしている。必要に応じて職員間で話し合い、介護計画も変更している。	モニタリングは3ヶ月に1回行い計画を見直している。6か月に1回家族・担当職員・計画作成担当者などでサービス担当者会議を開き、それぞれの意見を反映した計画を作成している。職員は計画を実践するため、援助内容について常に話し合い統一した介護に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや利用者様それぞれの記録をし、情報を共有するよう日々努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれにあったサービスを提供していくため本人の様子や家族からの情報を活かして支援するようにしている。心療内科、歯科往診などもとりいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などで地域の方と交流をもつようにし、地域の中で役割をもてるように機会を作りながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際には日々の様子をメモしたものをわたすようにし、家族に伝えたり必要時には職員も一緒に同行して受診している。	希望されるかかりつけ医に家族が同行し受診しており、文書で情報提供している。家族の同行が難しい場合は職員が同行し主治医と直接情報交換している。隣接するクリニックの往診が可能で、主治医を変更する方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には併設の看護師に相談し支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ行き、情報交換を行っている。退院後も安定した生活が送れるように、医療機関といつでも相談できるような関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の受け入れはしない方針を説明し、ご理解をいただいている。特養、医療機関等へ移る際は、そのつど話し合い、ホームでできることを伝えながら支援している。	看取りは行っておらず、常時医療行為が必要な方や一般浴での入浴ができない方は対応が難しいことを契約時に家族に説明している。状態変化に応じ家族と話し合い、思いや要望をくみ取りながら、重度の方でも出来る限り対応している。また今後について不安の無いよう、同法人の他のサービスの説明をするなど支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時新マニュアルを作成し急変時、事故発生時に備え早急に連絡、対応できるようにしている。	急変や事故発生時は併設事業所と連携し対応している。緊急連絡網を掲示し、緊急時の持ち出しファイルを準備している。今後は更に情報を伝えやすいようファイルを整備する予定である。	急変や事故発生時、全職員が落ち着いて対応できるよう、救急救命法や応急手当の研修や訓練を定期的に行うことが望まれる。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもと昼夜想定での訓練を行っている。様々な災害の想定をし、訓練を計画していくよう取り組んでいきたい。	併設事業所と合同で避難訓練している。年2回昼夜想定で行い、消防署や防災設備の業者よりアドバイスをもらっている。また災害時協力してもらえるよう地域の方に声をかけている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉をかけるようにし、他者との関係にも配慮しながら、プライバシーを守り支援している。	職員会議や朝のミーティングで常々言葉づかいやプライバシーの確保について話し合っている。職員は人生の先輩であることを念頭に利用者に関わり、信頼関係を築いた上で、その方・その時々に合わせて言葉づかいや対応をしている。記録類は目に触れないようロッカーに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を出しやすいよう職員もコミュニケーションをとり、理解できるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の観察で利用者様のペースを把握し希望にそって柔軟に対応できるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望にあわせ、その人らしいおしゃれができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備、片付けなどはご利用者様合わせた支援を考えながら、職員とご利用者様と行っている。コミュニケーションをとりながら食べたい物の希望を聞き、職員と一緒につけものや、おやつ作りなどを行っている。	食事の盛り付けや後片付け・テーブル拭きなど一緒に行っている。たこ焼き・おはぎなどおやつを手作りしたり、個別の夕食支援やイベント時にお寿司やお弁当を買って食べるなど、利用者の好みを取り入れ、楽しむ工夫をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、利用者様の状態を把握するようにしている。水分を充分に取れない方にはゼリーなどで取ってもらえるよう工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアをし、場合によっては職員が支援している。拒否がある方には食事以外の時間にも口腔ケアをしていただけるようお言葉をかけている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を見ながらトイレ誘導をしたり、一人ひとりのペース、パターンを把握しながら支援している。	排泄パターンを把握したり、利用者の様子から察知し誘導することで失敗を減らしている。また可能な限りトイレでの排泄を大切にしている。チェック表はそれとわからないよう記号で記入し、誘導時はさりげなく声をかけるなど羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の便の様子をチェック表にし、困難時には服薬の調整、水分補給などもおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりがゆっくり入浴されるようコミュニケーションをとりながら、それぞれの希望が叶うよう支援している。	希望する時間帯のある方・ゆっくり入りたい方などなるべく本人の希望に沿えるよう支援している。拒否する方は家族と相談したり、言葉がけを工夫するなど無理強いせず入浴を促している。ミカンの皮を利用するなど入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや記録で利用者様の日中、夜間などの様子を把握し、その人にあったペースで安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋を個々にファイルにとじ、すぐに確認できるようにしている。変更時には申し送りなどで職員全員が把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで生活してきたことを変わらずできるように支援しながら気分転換をはかるようにし、役割をもってやりがいにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物など職員と一緒にいながら利用者様の希望にそってよう支援している。	天気が良ければ散歩に出かけたり、畑を見に行くなど日常的に戸外に出る機会を作っている。個別に希望があればドライブや神社へお参りに行ったり、日用品や洋服・おやつなどの買い物に行くなど外出支援している。	普段は行けないような場所にも、利用者の希望を聞いたり、季節などその時々状況に合わせ、外出を楽しめる機会をより多く設けるよう支援することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力を理解し必要に応じて家族と相談のうえ、こちらで管理している方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時の様子を把握しながら利用者様の思いを大切にし、いつでも電話できるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に工作などをし、作品を飾って季節感を感じてもらえるよう工夫している。	天井が高く開放感のある明るいリビングは、観葉植物や季節感のある作品で飾られ、温かい雰囲気である。ソファを置いたり、クッションや足台を利用するなど、居心地良く過ごしてもらえるよう工夫している。またトイレは温度差がないよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々様子を見ながら席がえをしたり、居心地よく過ごせるよう職員が間に入りながら過ごしていただけるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備えつけの物を利用してもらいながら利用者、家族と相談して、使い慣れた物等を持参して頂き、居心地良く過ごせるように努めている。	家族と本人で相談してもらい、ベットや布団・タンス・テレビなど自由に持ち込んでもらっている。部屋が清潔に保たれるようこまめに点検し、利用者と一緒に清掃するなど居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面式キッチンを活かしながら利用者のできることを見つけ出し、職員も支援しながら行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				